

新型インフルエンザワクチン

2009.12.04

函館近郊の新型インフルエンザは、ほとんど下火になり、現在は周辺町村にその流行が移っているようです。学校関係者の話では、生徒・児童の約4割程度が新型インフルエンザに罹ったとのことで、症状がはっきり出なかった子どもも含めれば、半分程度の子どもが何らかの形で感染したのではと推測されます。

インフルエンザ騒動が終わったかと思いきや、小さな子どもが罹ると呼吸が苦しくなって顔色が悪くなってしまうRSウイルス感染症がかなりの数で見られ、外来も入院も大変忙しい思いをしているようです。

11月から基礎疾患（子どもの場合は喘息や心臓病など）のあるお子さんから始まった新型インフルエンザワクチンですが、12月に入って1歳以上のお子さんの接種が始まっています。予約開始とともに鳴り止まない電話の対応で各病院の受付はほんとに大変な苦勞をしています。予防接種の基本は、普段の様子を知っているかかりつけ医で行うというのが原則です。子どもにとっても、いつもの場所でいつもの先生、いつもの看護師さんがいる安心できる場所でちょっとつらい思いをするのと、全然知らない場所、見たこともない人に囲まれてつらい思いをするのでは、前者のほうがずっと頑張りができます。

新型インフルエンザに罹りたくないという気持ちはとても理解出来ますが、新型インフルエンザワクチンも季節性インフルエンザワクチンもインフルエンザに罹らないという目的で接種をするのではなく、あくまでも重症化を防いだり、罹っても症状が少しでも和らげるのが目的だと言われます。現に、昨年までの様子をもても小学校低学年以下の年齢では、罹る罹らないと、ワクチンを打った打たないはほとんど関連性がありません。

新型インフルエンザの感染は落ち着いていますので、ワクチン接種も一刻も早くではなく、子どもの普段の様子を知っているかかりつけ医で順番を待って行うと考えて頂けないですか？早く打ちたいといろんな病院に電話をして様子を聞くことが、受付事務の方の疲弊を招いている実態もぜひ理解してください。